

車部品量産 3割増強

平安製作所 効率化へ6.5億円投資

自動車部品メーカーの平安製作所(滋賀県高島市)は高島市の工場に最新的大型加工機を導入するなど来年6月にも全製品の生産能力を約3割高める。工事費を含む投資額は6億5千万円。国内の自動車生産が伸びない中で、国内でも部品を低コストで量産できる体制を整えて海外の部品メーカーに対抗する。

主力のエンジン部品や

変速機向け部品の工場に加工能力2千トのプレス加工機や部品の自動箱詰め機などを導入する。エンジン部品であるドライブプレートの月産能力は4万個から6万個に高まるなど、全製品で平均3割の増産につなげる。

プレス加工機の導入で鉄を削って処理する工程を省けるほか、速度や稼働時間などの条件を調整できるので生産効率化に

つながる。高精度で難しい加工もこなし、新商品の

開発にも対応できる。

工場の延べ床面積は6300平方メートル。新設備で省力化とともに廃材を減らしてコスト競争力を高め、海外生産シフトを強める自動車メーカーからの受注を増やす。

同社は溶接や組み立て、塗装などの部品の一貫生産体制をとる。生産能力の増強を通じ、売上高は2012年3月期の58億円から15年3月期に68億円まで増やす計画だ。